

景 気 動 向 調 査

(第 169 回)

2013 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2013 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力のもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。尚、東日本大震災の影響により、2011年1月～3月期実績及び4月～6月期予測の調査については実施しておりません。

記

1. 実施時期 2013年7月下旬～2013年8月上旬
2. 調査対象期間 2013年4月～6月期実績
 2013年7月～9月期予測
3. 調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先 岩手県内企業 400社
5. 回答数 174通（回答率 43.50 %）
 <内訳> 製造業 57社 建設業 35社 卸・小売業 81社
6. 調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

2013年4～6月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 20.5 と前期（1～3月期） 30.1 に比較し、9.6 ポイント上昇している。2013年7～9月期の景況感は回復の見通しであり、資金繰りのみが下向く見込である。

特に、販売・仕入価格とも増加するとの実績と見通しの継続は、特筆される。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	4～6月期実績	7～9月期見通し
景況感	20.5	12.5
売上高・出荷高	14.4	1.3
収益	34.3	18.6
販売価格	15.9	16.7
仕入価格	47.5	53.3
資金繰り	6.4	12.2

国内経済は、企業収益が増益の見通しが強まり、雇用情勢も東北地方のみならず全国的に改善状況が確認できる。

自動車関連等の輸送機械業界やスマートフォン関連業種、その他輸出主体産業は高水準で推移するが、円安による原材料高の影響を多く受ける業種との二極化に注意を要する状況でもある。

岩手県内経済は、持ち直しが継続しているが、原材料・仕入価格上昇の影響も顕在化しており、建設関連を主体とした復興需要も一服感が出てきている。

雇用情勢は6月が1.03倍を確保。3月には0.97倍に落ち込みを見せたが、相応の高水準を維持している。

設備計画の目的は現状設備の維持・更新が中心となっており、今後復興を含めた企業再生や増産体制の整備に寄与する設備増加も期待される。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第153回	09年1～3月	92.7
2	第152回	08年10～12月	91.3
3	第124回	01年10～12月	91.2
4	第109回	98年1～3月	90.6
5	第111回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

1. 県内景況感について

全体のD Iは、 20.5であった。

各業種別のD Iをみると、製造業が 37.5、建設業が 17.1、卸・小売業が 25.0である。7~9月期見通しでは、製造業が 8.4ポイント、建設業が 8.7ポイント、卸・小売業は 7.0ポイントとそれぞれ上向き見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では 14.4であった。業種別では、製造業が 12.2、建設業が 14.3、卸・小売業が 16.1である。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高はD Iが 8.8、卸・小売業の仕入高は 10.1となっている。

(3) 在庫

製造業の製品在庫D Iは 3.6、卸・小売業の商品在庫は 17.3となっている。

(4) 収益

D Iは、全体では 34.3となっている。業種別では、製造業が 25.4、建設業が 31.4、卸・小売業が 41.8である。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 15.9、仕入価格は 47.5となっている。

3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は 21.7%となっている。

業種別では、製造業が 24.6%、建設業が 8.6%、卸・小売業が 24.3%である。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が 2位、「省力化・合理化」と「経営の多角化」が同率の 3位となっている。

4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では 6.4であった。業種別では、製造業が 19.3、建設業が 2.8、卸・小売業が 1.3である。

5. 経営上の問題点について

全業種合計では「売上・受注不振」、「原材料・仕入価格高」、「人手不足」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 全業種で実績は上向き、見通しも上向く予想 ～

[4～6月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）をみると、全業種では「良い」と答えた企業が19.9%（前期15.3%）、「悪い」が40.4%（同45.4%）で、DIは 20.5（同 30.1）と、9.6ポイント上向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 37.5（同 38.0）、建設業が17.1（同5.2）、卸・小売業が 25.0（同 42.6）となっており、全業種が上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が23.8%、「悪くなる」が36.3%であることから、DIは 12.5となり、4～6月期実績と比較すると上向く見通しとなっている。

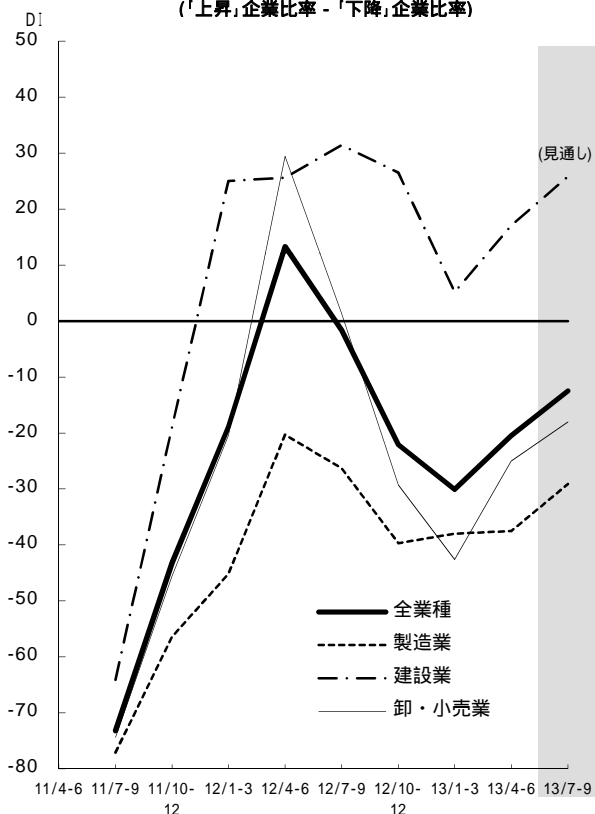
業種別にみると、製造業が 29.1、建設業が25.8、卸・小売業が 18.0となっており、全業種で上向く見通しで、建設業の見通しの明るさは継続している。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い		
全業種	4～6月 (実績)	0.0	19.9	39.7	28.7	11.7	-20.5
	7～9月 (見通し)	0.6	23.2	39.9	29.8	6.5	-12.5
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	14.3	33.9	28.6	23.2	-37.5
	7～9月 (見通し)	1.8	18.2	30.9	38.2	10.9	-29.1
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	37.1	42.9	5.7	14.3	17.1
	7～9月 (見通し)	0.0	42.9	40.0	5.7	11.4	25.8
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	16.3	42.4	38.8	2.5	-25.0
	7～9月 (見通し)	0.0	17.9	46.2	34.6	1.3	-18.0

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～実績は製造業と建設業が下向き、見通しは全業種で上向きを予想～

[4～6月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が31.2%(前期31.5%)、「減少」が45.6%(同47.3%)となり、D Iは14.4(同 15.8)と1.4ポイント上昇した。

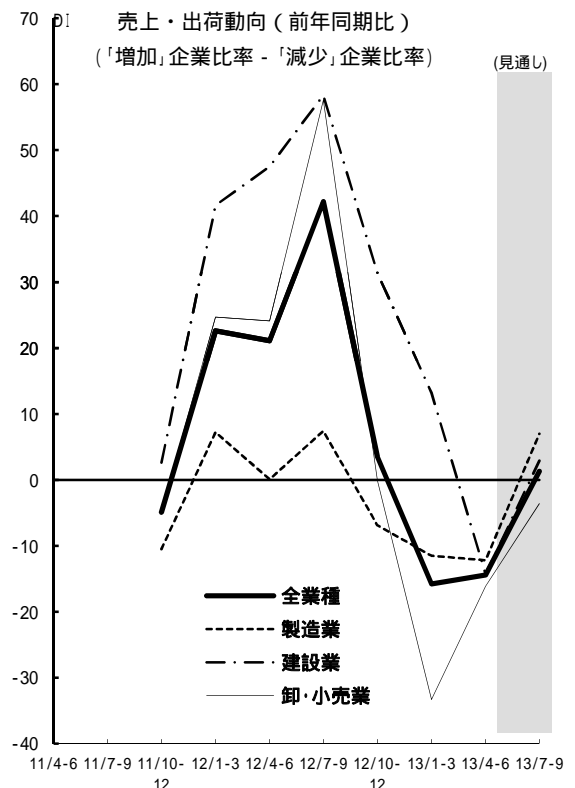
業種別にD Iをみると、製造業 12.2(前期 11.5)、建設業 14.3(同13.2)、卸・小売業 16.1(同 33.3)となっており、製造業と建設業は下向き、卸・小売業は上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が33.2%、「減少」が31.9%であることから、D Iは1.3で、4～6月期実績と比較して上向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業で7.0、建設業で2.9、卸・小売業で 3.6となっており、上向き見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月(実績)	6.9	24.3	23.2	35.8	9.8	-14.4
	7～9月(見通し)	3.5	29.7	34.9	26.7	5.2	1.3
(製造業)	4～6月(実績)	8.8	21.1	28.0	35.1	7.0	-12.2
	7～9月(見通し)	5.3	28.1	40.2	21.1	5.3	7.0
(建設業)	4～6月(実績)	0.0	28.6	28.5	22.9	20.0	-14.3
	7～9月(見通し)	2.9	29.4	38.3	20.6	8.8	2.9
(卸・小売業)	4～6月(実績)	8.6	24.7	17.3	42.0	7.4	-16.1
	7～9月(見通し)	2.5	30.9	29.6	33.3	3.7	-3.6



(2) 生産高または仕入高

～ 全業種が実績は上向き、見通しも上向く予想～

[4～6月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が29.8%（前期31.4%）、「減少」が38.6%（同43.1%）で、DIは 8.8（同 11.7）と若干上向きとなっている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は32.9%（前期24.0%）、「減少」が43.0%（同49.3%）で、DIは 10.1（同 25.3）5.2ポイント上向いた。

[7～9月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が33.4%、「減少」が21.0%であることから、DIは 12.4で、4～6月期実績と比較して21.2ポイントと大幅に上向く見通しとなっている。

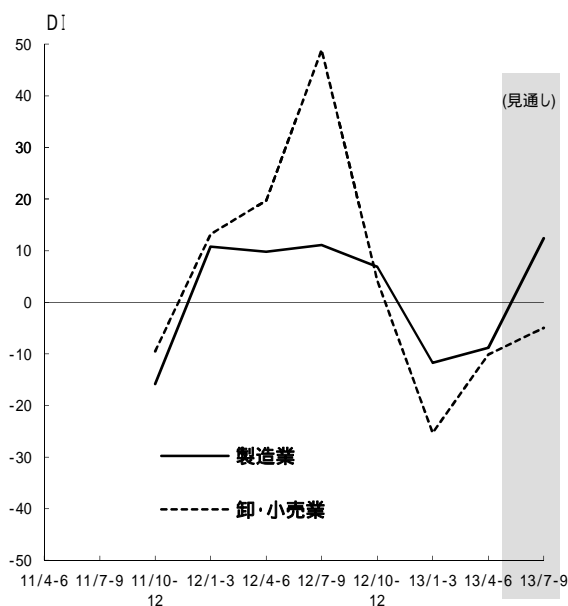
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が29.1%、「減少」が34.1%であることから、DIは 5.0となり上向く見通しである。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	4～6月 (実績)	10.5	19.3	31.6	36.8	1.8	-8.8
	7～9月 (見通し)	5.3	28.1	45.6	17.5	3.5	12.4
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	7.6	25.3	24.1	39.2	3.8	-10.1
	7～9月 (見通し)	3.8	25.3	36.8	31.6	2.5	-5.0

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 実績は製造業と卸・小売業とも下向き、見通しは上向きを予想 ～

[4～6月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は23.2%（前期23.6%）、「減少」が26.8%（同21.5%）であることから、DIは 3.6（同2.1）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が8.0%（同12.0%）、「適正」が80.0%（同76.0%）、「不足」が12.0%（同12.0%）である。

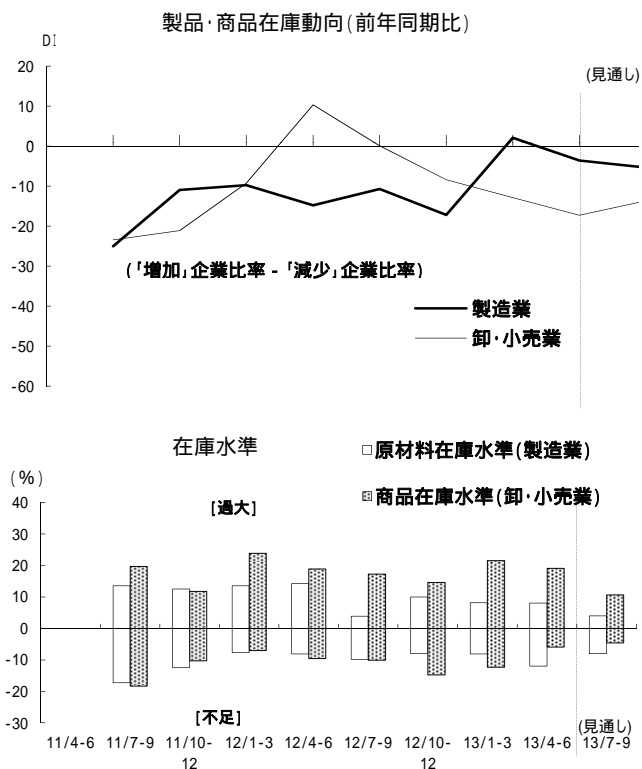
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が13.4%（前期11.4%）、「減少」は30.7%（同24.3%）であることから、DIは 17.3（同12.9）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が19.1%（同21.6%）、「適正」が75.0%（同66.1%）、「不足」が5.9%（同12.3%）である。

[7～9月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が12.5%、「減少」が17.9%で、DIは 5.4となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が4.0%、「適正」が88.0%、「不足」が8.0%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が8.2%、「減少」が21.9%であることから、DIは 13.7となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が10.7%、「適正」が84.7%、「不足」が4.6%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	4～6月 （実績）	3.6	19.6	50.0	23.2	3.6	-3.6
	7～9月	1.8	10.7	69.6	17.9	0.0	-5.4
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	2.7	10.7	55.9	28.0	2.7	-17.3
	7～9月 （見通し）	1.4	6.8	69.9	21.9	0.0	-13.7



(4) 収 益

～ 収益実績は下向き、見通しは上向き改善を予想～

[4～6月期の実績] 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が18.9%（前期21.3%）、「減少」が53.2%（同48.7%）であり、D Iは 34.3（同 27.4）となり6.9ポイント下向いている。

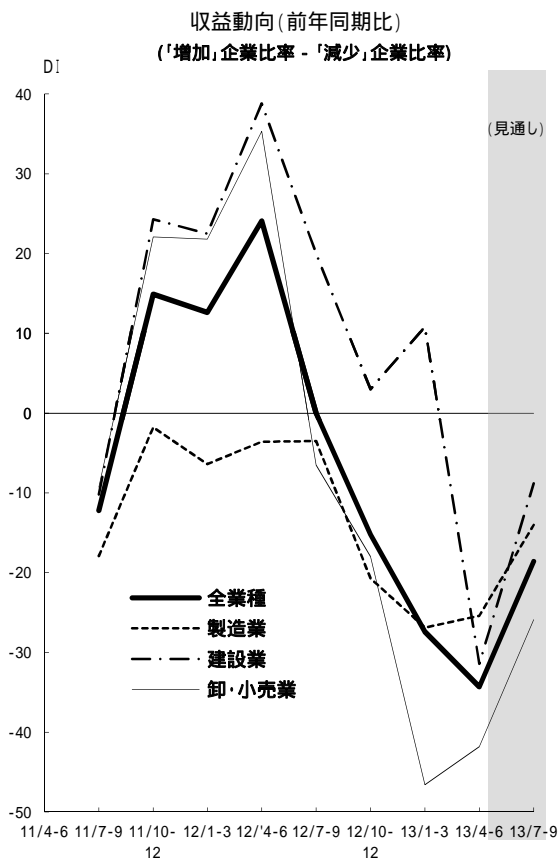
業種別にD Iをみると、製造業 25.4（前期 26.9）、建設業 31.4（同10.8）、卸・小売業 41.8（同 46.6）と製造業と卸・小売業は上向いたが、建設業は大きく下向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が19.8%、「減少」とみる企業が38.4%であることから、D Iは 18.6で、4～6月期実績と比較して上向き見通しである。

業種別にD Iをみると、製造業 14.0、建設業 8.8、卸・小売業 25.9で、4～6月期実績と比較して、全業種とも上向き見通しである。

収 益(前年同期比)

		D I (%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	D I	
全業種	4～6月 (実績)	4.1	14.8	27.9	41.4	11.8	-34.3	
	7～9月 (見通し)	0.6	19.2	41.8	32.0	6.4	-18.6	
(製造業)	4～6月 (実績)	7.3	16.4	27.2	41.8	7.3	-25.4	
	7～9月 (見通し)	1.8	19.3	43.8	33.3	1.8	-14.0	
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	20.0	28.6	31.4	20.0	-31.4	
	7～9月 (見通し)	0.0	23.5	44.2	17.6	14.7	-8.8	
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	3.8	11.4	27.8	45.6	11.4	-41.8	
	7～9月 (見通し)	0.0	17.3	39.5	37.0	6.2	-25.9	



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格、仕入価格とも上向く見通しが継続～

[4～6月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が29.0%（前期17.8%）、「低下」が13.1%（同16.0%）であることから、DIは15.9（同1.8）と大幅に上向いた。

仕入価格（前年同期比）も、全業種では「上昇」と答えた企業が52.3%（前期39.6%）、「低下」が4.8%（同6.1%）であることから、DIは47.5（同33.5）と大幅に上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が29.3%、「低下」とみる企業が12.6%であることから、DIは16.7で、4～6月期実績と比較して、更に上向く見通しとなっている。

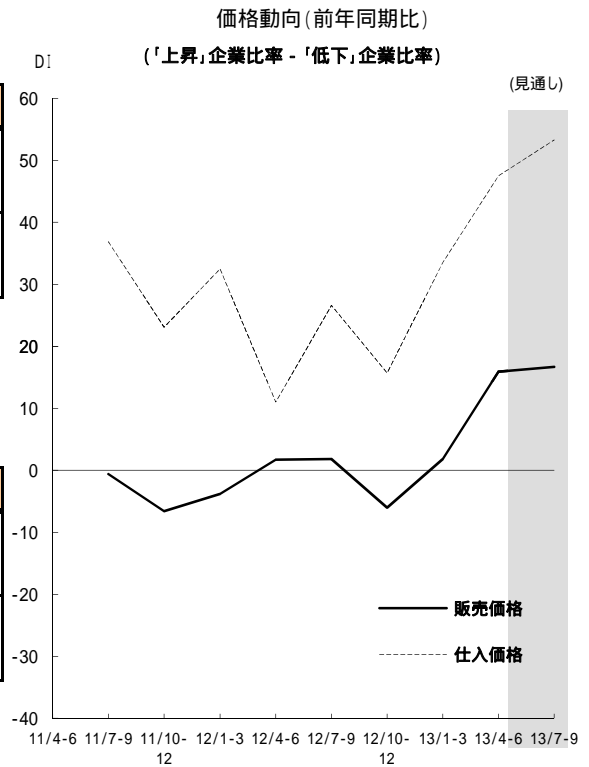
仕入価格については、「上昇」とみる企業が56.3%、「低下」とみる企業が3.0%であることからDIは53.3となり、DIは大幅に上向く見通しである。

販売価格(前年同期比)

		（％）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	3.6	25.4	57.9	10.7	2.4	15.9
	7～9月 (見通し)	1.8	27.5	58.1	11.4	1.2	16.7

仕入価格(前年同期比)

		（％）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	7.1	45.2	42.9	4.8	0.0	47.5
	7～9月 (見通し)	6.0	50.3	40.7	3.0	0.0	53.3



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

～ 実績は下向くが、見通しは建設業以外が上向く予想 ～

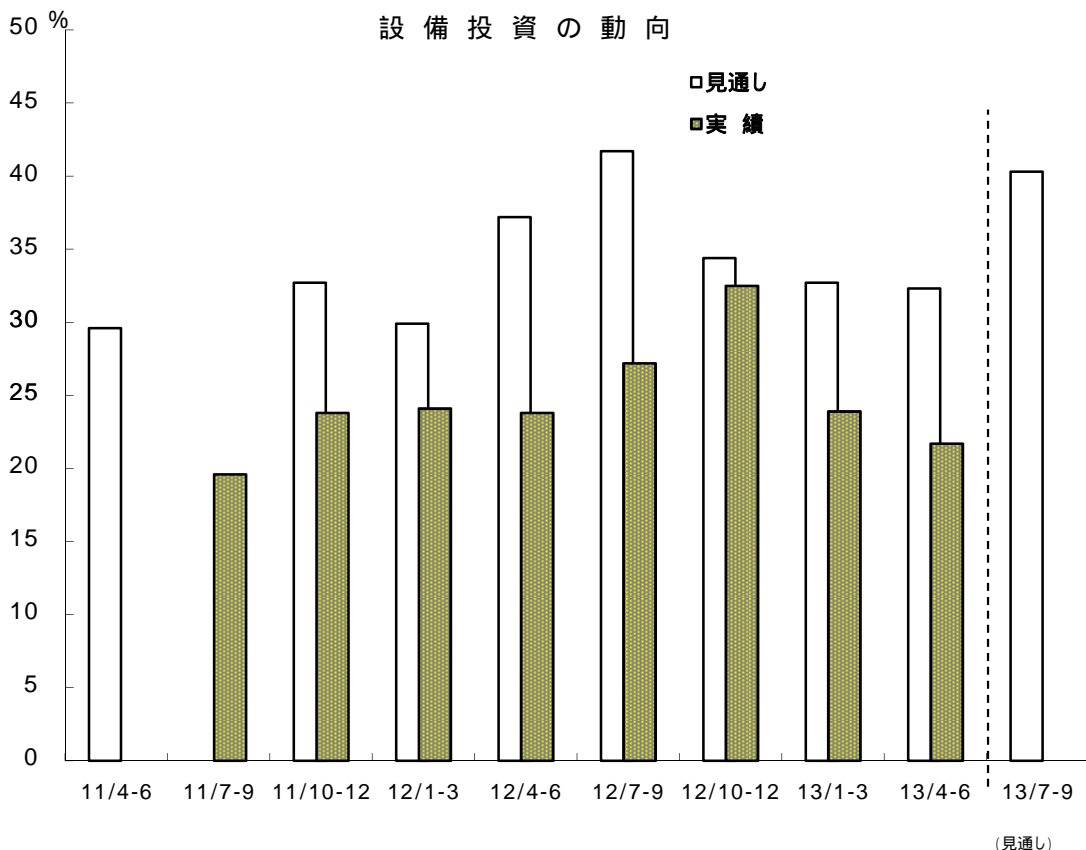
[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は21.7%（前期23.9%）と下向いている。

これを業種別にみると、製造業24.6%（前期32.7%）、卸・小売業24.3%（同19.2%）建設業8.6%（同21.0%）であり、卸・小売業は上向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で24.3%（前期14.9%）、「計画はあるが具体化していない」は16.0%（同17.4%）、「計画はない」は59.7%（同67.7%）であった。

「計画あり」は合計40.3%（同32.3%）と上向く見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で51.8%（前期34.8%）、建設業で17.2%（同23.7%）、卸・小売業で41.0%（同34.8%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

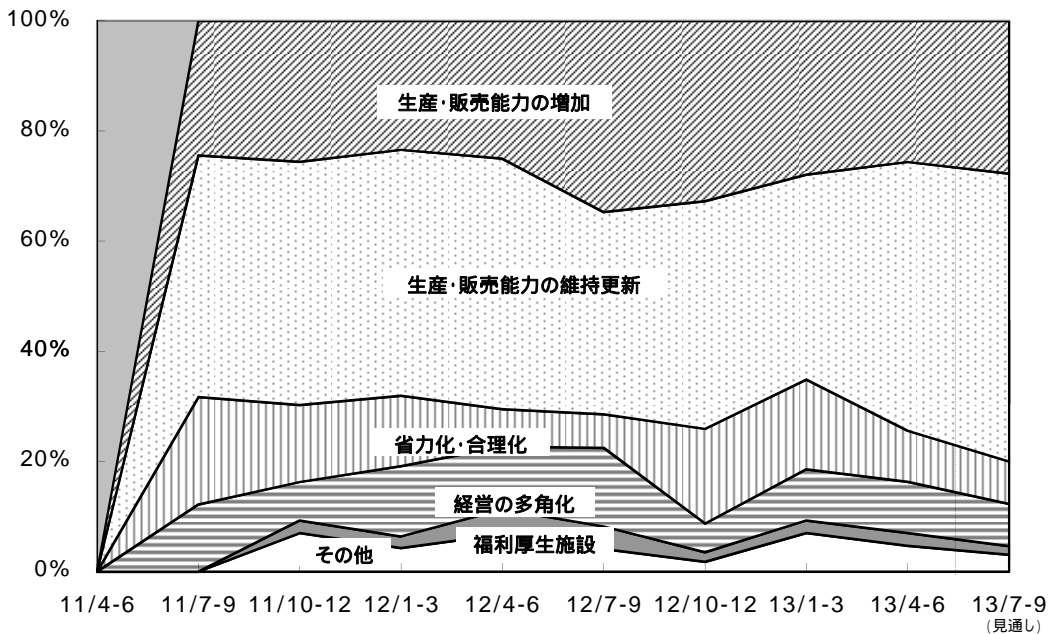
〔4～6月期の実績〕 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(21.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が50.0%(前期37.2%)でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が26.2%(同27.9%)で2位、「省力化・合理化」と「経営の多角化」が9.5%(同16.3%)で同率の3位となっている。

業種別にみると、製造業と卸・小売業で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、建設業では「生産・販売能力の増加」がトップである。

〔7～9月期の見通し〕 今後3カ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(40.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が53.1%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」28.1%、「省力化・合理化」と「経営の多角化」が7.8%で同率で3位である。

設備計画の目的が生産等の維持更新が主体となっている点が注目である。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 資金繰りの実績は上向くが、見通しは下向く予想～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が15.0%(前期9.5%)、「苦しくなった」が21.4%(同26.1%)であることから、D Iは 6.4(同 17.6)と上向いた。

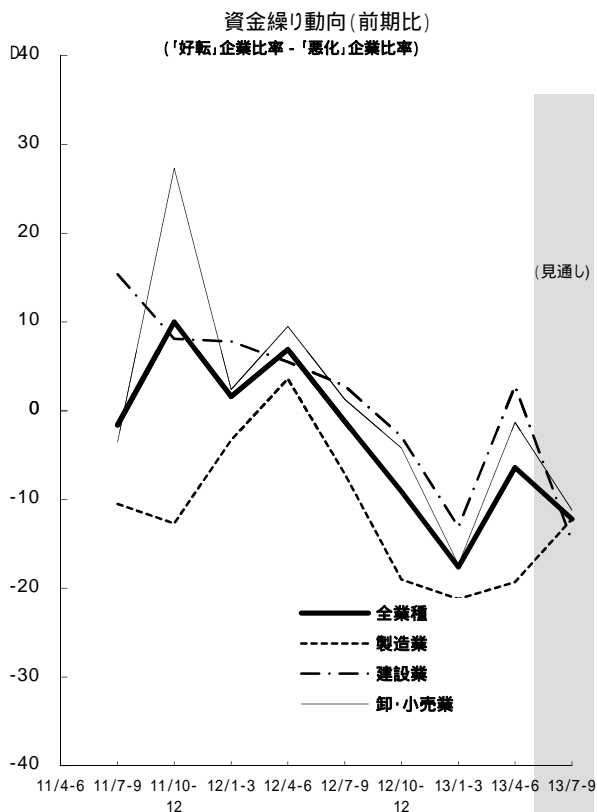
業種別にD Iをみると、製造業が 19.3(前期 21.2)、建設業が2.8(同 13.1)、卸・小売業は 1.3(同 17.3)と全業種において上向きが確認された。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が11.6%、「苦しくなる」が23.8%で、D Iは 12.2となり、4～6月期実績と比較して、下向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 12.2、建設業 14.7、卸・小売業 11.2となっており、建設業と卸・小売業は下向く見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(%)						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	4～6月 (実績)	2.9	12.1	63.6	17.9	3.5	-6.4	
	7～9月 (見通し)	1.7	9.9	64.6	20.3	3.5	-12.2	
(製造業)	4～6月 (実績)	3.5	5.3	63.1	21.1	7.0	-19.3	
	7～9月 (見通し)	3.5	8.8	63.2	17.5	7.0	-12.2	
(建設業)	4～6月 (実績)	5.7	17.1	57.2	20.0	0.0	2.8	
	7～9月 (見通し)	0.0	14.7	55.9	26.5	2.9	-14.7	
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.2	14.8	66.7	14.8	2.5	-1.3	
	7～9月 (見通し)	1.2	8.6	69.2	19.8	1.2	-11.2	



(2) 現金・預金

[4~6月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が17.8%(前期14.5%)、「減少した」が27.0%(同37.6%)であることから、DIは9.2(同23.1)と上向いた。

[7~9月期の見通し] 4~6月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が11.0%、「減少する」が29.5%であることから、DIは18.5(前期18.9)と下向く見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

[4~6月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が14.3%(前期21.3%)、「減少した」が35.1%(同26.9%)であることから、DIは20.8(同5.6)と上向いた。

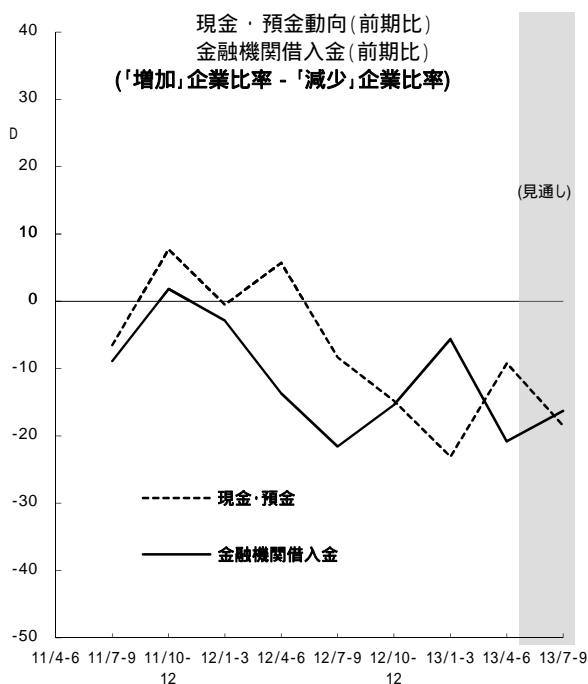
[7~9月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が13.2%、「減少する」が29.5%であることから、DIは16.3(前期18.6)と若干上向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4~6月 (実績)	2.9	14.9	55.2	21.8	5.2	-9.2
	7~9月 (見通し)	0.6	10.4	59.5	23.1	6.4	-18.5

金融機関借入金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4~6月 (実績)	1.8	12.5	50.6	33.3	1.8	-20.8
	7~9月 (見通し)	1.2	12.0	57.3	28.9	0.6	-16.3



(4) 販売代金回収期間

[4~6月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が2.3%(前期3.0%)、「長くなった」が12.8%(同8.5%)であることから、DIは10.5(同5.5)となった。また、84.95%(同88.5%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が1.2%、「長くなる」が11.7%であることから、DIは10.5(前期5.5)となる。また、87.1%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[4~6月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が1.2%(前期2.4%)、「短くなった」が4.1%(同4.2%)であることから、DIは2.9(同1.8)となった。また、94.7%(同93.4%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が0.6%、「短くなる」が3.5%であることから、DIは2.9(前期3.7)となる。また、95.9%の企業は「変わらない」とみている。

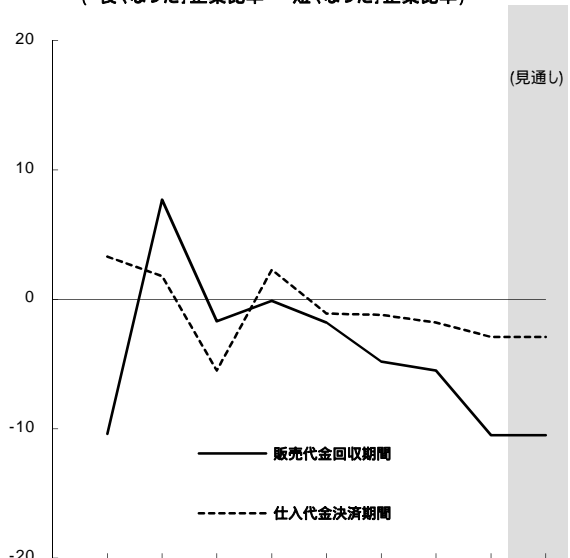
販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4~6月 (実績)	0.0	2.3	84.9	11.6	1.2	-10.5
	7~9月 (見通し)	0.0	1.2	87.1	11.1	0.6	-10.5

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4~6月 (実績)	0.0	1.2	94.7	3.5	0.6	-2.9
	7~9月 (見通し)	0.0	0.6	95.9	2.9	0.6	-2.9

販売代金回収期間動向(前期比)
('短くなった'企業比率 - '長くなった'企業比率)
仕入代金決済期間動向(前期比)
('長くなった'企業比率 - '短くなった'企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 経営上の問題は「原材料・仕入価格高」と「人手不足」が顕在化 ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」22.6%（前期19.7%）、「原材料・仕入価格高」19.0%（同16.1%）、「人手不足」11.9%（同10.3%）「原材料・仕入価格高」と「人手不足」が増加し、上位ランクとなった。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「売上・受注不振」26.7%（同25.3%）と「原材料・仕入価格高」26.7%が同率で一位、「収益不振」11.4%の順となっている。建設業では「人手不足」26.7%（同16.2%）がトップとなり、「原材料・仕入価格高」23.3%、「売上・受注不振」13.3%の順となっており、「人手不足」が急激に顕在化した。卸・小売業では「売上・受注不振」23.9%（20.0%）、「過当競争」13.8%、「収益不振」と「原材料・仕入価格高」が11.6%の同率である。

